

2018 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

寺 西 悠 (慶應義塾大)

この度コペンハーゲン（デンマーク）で開催されましたEAU2018にJUA/EAU Resident Programmeの一環で参加致しました。AUA等の他の国際学会での発表経験はあるのですが、EAUへの参加は今回が初めてであり出発が非常に待ち遠しい日々でした。現地は風が強く私の故郷の北海道よりも格段に寒かったのですが、欧州有数の学会場であるBella Centerの中に入ると大変な熱気に包まれており、世界最大規模の泌尿器科学会の1つであることを実感しました。

幻想的で迫力のあるスネアドラムの演奏で幕を開けた芸術的なOpening Ceremony、第一人者が怒涛のスピードで解説をしていくExpert-Guided Poster Tour、最新の機器が展示され身動きも取れないほど盛況な企業ブースなど、興味深いプログラムを次々と渡り歩きました。中でも印象に残ったプログラムはLive Surgeryです。ロボットでの前立腺全摘やTULの症例が複数の術者で複数準備されており、術者やデバイスによる類似点や相違点があるのが場で感じ取れるようになっており、Liveを観ているだけでフィードバックとなる構成でした。東邦大学卒業後に医師になってからずっと手術に明け暮れてきましたので、Live Surgeryを異国の地で心ゆくまで堪能することができ、Programmeに参加して良かったという感慨が湧きました。またプログラムを眺めて気が付いたのですが、若手医師のためのYOURDAYというプログラムが1日通して開催されており、長期間の学会参加が出来ない欧州のレジデントでもこれに参加すれば基本的な内容やトピックス、EAUガイドラインなどが網羅的に学べる工夫がされておりました。絢爛豪華な印象のAUAとは対照的に、moderateなEAUの洗練された雰囲気は欧州の長い歴史が作り上げたものと思えてなりません。

さて当Programmeは前年の秋に書類の締切りがあります。応募動機や推薦文、英語での履歴書などを提出し、



学会場のBella Center Copenhagenにて、
左より定平先生、後藤先生、寺西（筆者）

年末に採択の通知メールが届きEAU事務局の方と1~2回ほどメールでやり取りをしました。宿泊費と学会参加費を負担して頂けるので、迅速に航空券の手配を行いました。現地で同じProgramme参加者の定平卓也先生（岡山大学）、後藤駿介先生（九州大学）と連絡を取り合い、各国の若手が集まるResident Dinnerへ赴きましたが、臨床や研究はもちろんのこと、生活面のことなどを含めて国内外の他施設の話が同時に聞ける機会としては非常に貴重でありました。定平先生と後藤先生とは、歴史を漂わせるBarでCarlsbergを片手に遅くまで泌尿器科領域を超えて網羅的に議論を交わすことができました。お二人の先生とは今後も末永く親睦を深められることを願ってやみません。

最後になりますが、国際委員会の先生方をはじめとしたJUA/EAUの関係者の方々、当Programmeに推薦頂きました大家基嗣先生、これまでご指導頂きました諸先生方を含め自施設の皆様に深く御礼申し上げます。